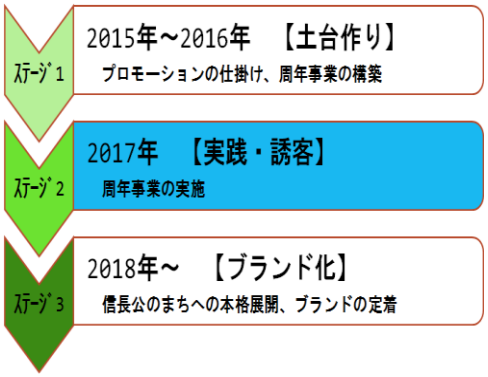
第６章

信長公ゆかりのまちのブランド化に向けて

（1）今後に向けて

岐阜市信長公450プロジェクトの目的は、周年事業の実施を通じ広く市内外に「信長公ゆかりまち・岐阜市」をブランド発信するとともに、観光誘客・賑わいの創出を図り、更には、市民・企業等と一体感を持って盛り上げることを通じ、シビックプライドを高め、将来に向けての都市ブランド化、歴史観光都市としての観光振興・地域活性化に繋がるきっかけとすることです。

前章までに記載した通り、プロジェクトのステージ１、及びステージ２における取り組みにおいては、周年事業の賑わいや市外への情報発信、市民団体等の参画などにおいて一定の結果が得られており、概ね目的を達成できているものと考えます。



しかしながら、まだ始まったばかりのプロジェクトとして、これからいよいよステージ３に移るにあたり、これまでの取り組みをどのように活かし、将来に繋げていくかが課題となります。

周年事業という大きなプロジェクトや、周年事業として実施した特別な記念イベントを継続して実施していくことは難しい状況にある中で、どのようにブランドとして定着させ、誘客に繋げていくか。

そのため実施していかなくてはならないことは、

・行政も含め企業、市民一人一人が地域に愛着を持って発信し続けること
・地域固有の資源をさらに磨き続けること
・既存事業のブラッシュアップ（独自性、特異性の付加）
・市内（特に駅から岐阜公園周辺）での情報発信
・広域的な連携

であると考えます。

このことについては、昨年12月にクロージングイベントを開催した際に、地元の岐阜小学校の児童が宣言した“５００（ごーまるまる）への誓い”にも表れています。

５００（ごーまるまる）への誓い

私たちが住んでいるこの岐阜市のルーツは、歴史上もっとも有名な戦国武将織田信長公が１５６７年にこの地に入城し、地名を岐阜と命名したことに、たどることができます。

岐阜市を代表する清流長良川や鵜飼、金華山・岐阜城などの素晴らしい自然や文化は、日本遺産「信長公のおもてなしが息づく戦国城下町・岐阜」として認定されました。織田信長公に非常にゆかりの深いまちとして、今もなお信長公を感じることができます。

信長公の時代から引き継がれる豊かな自然、信長公が岐阜の地から新たな時代を切り拓いたことは私たちの誇りです。地域の宝です。

私たちは、今回実施された信長公４５０プロジェクトを通じ、このことを改めて感じることができました。

私たちが地域の中心となっている５０年後も、岐阜市が「信長公ゆかりのまち・岐阜市」として、歴史観光都市として、ますます発展していくことを願い、以下のとおり誓います。

１．もっと信長公のこと、岐阜市のことを知るよう努力します。

１．地域の宝がいつまでも美しく残っていくように努力します。

１．地域の宝に誇りと愛着を持ち、岐阜市の素晴らしいところを多くの人に伝えていきます。

２０１７年１２月２２日

岐阜小学校６年　小野　絵美夏
末次　寛匡
中西　真尋
林　陽夏穂

信長公が岐阜と命名したこと、信長公がおよそ10年間居住し今の岐阜市に繋がる取り組みを行ったこと、日本遺産に認定されたことなどの事実は、今後も変わることはありません。道三公、濃姫との関連も含め、これまで以上に官民一体となって発信していくことが重要です。

（2）今後の推進体制

岐阜市企画部信長公450プロジェクト推進課及び岐阜市信長公450プロジェクト実行委員会という組織は、周年事業の実施のために特別に設置されたものであり、周年事業の終了にあたり解散となります。

今後、プロジェクトを継続的に推進していく体制としては、岐阜市役所の庁内組織としての「信長公による岐阜市活性化推進会議」、民間団体等の参画も頂く「日本遺産“信長公のおもてなし”岐阜市推進協議会」が連携を図り推進していきます。

信長公による岐阜市活性化推進会議

連携

設　置：平成21年4月
目　的：信長公が岐阜市に遺した歴史及び文化の魅力を掘り起こし、岐阜市の活性化を図る
構　成：市長公室、企画部、商工観光部、まちづくり推進部、都市建設部、基盤整備部、教育委員会
事務局：岐阜市企画部政策調整課

日本遺産“信長公のおもてなし”岐阜市推進協議会

設　置：平成27年5月
目　的：日本遺産として認定された「“信長公のおもてなし”が息づく戦国城下町・岐阜」のストーリーを活用し、地域の活性化を図る
構　成：岐阜商工会議所
岐阜市旅館ホテル協同組合
公益財団法人岐阜観光コンベンション協会
公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団
一般財団法人岐阜市にぎわいまち公社
岐阜市
事務局：岐阜市教育委員会社会教育課

（3）施策の方向性（参考）

◎シビックプライドの向上

平成29年度市民意識調査結果（n=1,610）によると、
岐阜市と信長公の関連性（450年前に入城、岐阜と命名）については、6割を超える方が知っていると回答した一方、鵜飼を保護したことについては、約2割にとどまること。また、岐阜市の魅力の設問に対しては、信長公と答えた方は約30％である一方、信長公と関連がある岐阜城（約70%）、鵜飼（約55%）と高い数値になっています。

この点から、信長公そのものではなく、信長公と岐阜市の関係をしっかり伝え、理解していただく事がより市民の方々に愛着と誇りを持ってもらえることに繋がると考えます。

そのための取り組みとしては、日本遺産に認定されたストーリーや岐阜市ならではの特徴などを学校での授業や出前講座、長良川大学などで伝えていくことや、鵜飼などの関連性がある事業において、“信長公が○○した”などのキャッチをつけて発信していくことが有効であると考えます。

◎日本遺産を前面に出した施策展開

日本遺産制度は、2020年の東京オリンピックをめざし、国が文化財を観光に繋げることを目的として創設されたものであり、岐阜市としてもその流れに沿って、認定自治体との連携も含め積極的にプロモーションしていく必要があると考えます。

また、認定及び450プロジェクトを契機として制作した「信長公居館ＣＧ映像」及びその発掘現場の積極的な活用も信長公と岐阜市の目に見える特異性として効果的と考えます。

◎信長公ゆかりの史跡を活用

岐阜市内には、岐阜城だけでなく菩提寺である崇福寺をはじめ、円徳寺や立政寺など多くの信長公ゆかりの史跡が残されています。濃姫の遺髪塚や織田塚なども含め、こうした信長公に関する史跡めぐりなどを提案することも、信長公と岐阜市の関わりを発信する上で有効であると考えます。

◎濃姫や道三公と絡めた信長公の紹介

信長公の正室として名高い濃姫や、その父であり、信長公に国譲り状を送ったとされる斎藤道三公は、信長公にとって岐阜との関わりを強めた重要な人物であり、濃姫や道三公と絡めて信長公を紹介できることは、信長公による岐阜命名や、居館や鵜飼でのおもてなしとともに、岐阜市固有の資源であり、数ある信長公ゆかりのまちにおいて、岐阜市を特徴づけることに繋がると考えられます。

◎年齢層にあわせた効果的な情報発信方法の選択

周年事業におけるアンケート結果からは、20歳～30歳代への情報発信にＳＮＳが非常に有効であることが改めて実証されました。一方で、市内の60歳以上の方のほとんどは広報ぎふから情報を得られていました。

高齢者には広報ぎふを活用した情報発信や新聞への広告掲載を行い、市外、特に若年層へは、拡散力に優れたＳＮＳでの情報発信やスマートフォンアプリへの広告掲載を行うなど、ターゲットとなる年齢層にあわせて情報発信方法を選択していくことが効果的です。

◎岐阜市出身県外在住者の活用

岐阜市内において県外へプロモーションすることには、限りがあります。そのため、岐阜市出身の県外在住者の方々に対し、故郷岐阜市の情報を届け、その方々に発信していただく事は非常に効果的な手段と考えます。

◎タイアップ企業とのネットワークの活用

周年事業で実施した大手企業とのタイアップ事業は、それぞれのユーザーなどに対して企業によるＳＮＳの発信など、市の取り組みでは届きにくい方々への情報発信が可能となりました。

今後、事業を新規立案していく上においては、今回の企業とのネットワーク、継続性は非常に重要なものと考えます。

◎市内におけるサインの充実

今回のプロジェクトの実施に際し多くの方からご意見を頂いた点に、駅を降りてから岐阜城やイベント会場に行くまでの間に、信長公とうたったサインや案内等がほとんどないことがありました。

道路を直接占有する幟等を常時設置することは難しいですが、岐阜市に来られた方に意識をしてもらうため、おもてなしという点においても、市内各所で常時信長公を目にするようなサイン等を充実することが必要であると考えます。

また、信長公450プロジェクトの情報を発信するにあたり、ロゴマークは効果的でした。統一した信長公デザインを整備、導入し、市内サインとして用いることも効果的であると考えます。

◎ゲームやアニメを活用したプロモーション

大人気ゲーム「戦国無双」とコラボしたパネル展には、多くの外国人が訪れました。ＳＮＳを通じて情報を得る旅行者も多い為、インバウンドにはゲームやアニメといった海外でも人気の高い日本のサブカルチャーを用いた事業や情報発信は効果的であると考えます。